

## 「認知症カフェ」プロジェクト 第2回検討会開催

### 第2回「認知症カフェ」プロジェクト検討会

開催日：3月5日(水) 18時30分～20時 ウェルとばた会議室

同窓会の認知症カフェプロジェクトの第2回検討会が「老いを支える北九州家族の会(代表高田芳信氏ほか3名)」を迎えて3月5日18時30分からウェルとばた会議室で開催された。

同窓会からは、夢追塾会員の取り組み事例、家族の会からは設立経緯、認知症に対する対応、認知症について望むことが話された。高田代表からは、ご自身の配偶者介護ご経験からのお話を皮切りに認知症の現況認知症カフェの意義と必要性が熱意を込めて話された。今後の提携の必要性を感じた。

要旨は、以下の通り。

報告 同窓会 香月英彦

### ※夢追塾同窓会会員の認知症および高齢者支援に対する取り組み事例

#### 1) グループとしての取り組み

地域サロン

市民センター、公民館 サロン(笑顔・いきいき・夢サロン)

ウェルとばた 夢追い広場

傾聴ボランティア ふくろうの会、リスの会

よさこい同好会、おもちゃ図書館かんらんしゃ、もりふじサロン

#### 2) 起業としての取り組み事例

絆カフェ「アミザーデ」

ケアプランライフサポート「なごみ」

小規模共生型デイサービス「はなそらの家」

コーヒーカフェ銀の時計

#### 3) 個人の取り組み

認知症サポーター 後見人

キャラバンメイト 福祉協力員

介護福祉士

社会福祉士

病院・施設



### ※夢追塾同窓会認知症カフェプロジェクトについて

- (1) 支援組織
- (2) 起業希望者との連携
- (3) モデルカフェについて検討

## ※老いを支える北九州家族の会の報告

- 1、設立 平成6年（1994年）立ち上げ、平成8年（1994年）家族の会に発展400人
- 2、認知症に対する対応（交流会、独自事業、事務所ひろば、推進会議、もりフォーラム、啓発
- 3、認知症カフェに望むこと

認知症の理解を基本に、地域での日常生活・家族支援＝助け合いの場所としての位置づけ。

「具体的な対応方策」住み慣れた地域で安心して住み続けるための認知症患者および家族と専門家、地域住民の出会いの場として希望。

○家族に対する支援・・・国のオレンジプランから・・・家族教室、認知症カフェの提案

○若年性認知症施策の課題・・・居場所づくり

○認知症カフェのあり方・・・7要素、10の特徴

効果・・・1、認知症の人と家族の食事を通じたつながり

2、本人に対するもの・・・親しみやすい空間で生きがいを感じ笑顔になれる

3、社会につながる場

4、認知症ケアの入り口

5、家族同士の交流

6、家族と認知症本人の出会い直し

7、専門家との効果

8、地域住民の効果

9、住民同士の出会い

10、支援する医療職・介護職への効果

11、市ボランティアへの効果

12、社会・地域への効果



○認知症ケアにおける認知症カフェの意味

行きたいときに行く。一人のひととして暮らしの延長線上にある。

本人の主体性、本人と家族の関係性も変える。

カフェのゆるやかなつながりは、本人と家族にとって専門職や地域の第三者理解のある友人として機能する。カフェの存在は、認知症の人と家族の関係本人と周囲との関係によい方向の変化を生み出していく。

